

第 8 弾！ UROKO MATSURI

「芸術の秋」にちなんで編集部員おすすめの作品を一挙に紹介する「鱗祭（うろこまつり）」。

2017 年から始まったこの企画も、気づけば今年で第 8 弾を迎えました。編集部員厳選の本、マンガ、CD、映画、ボードゲームの 12 作品の中から、秋の夜長のお供になるようなお気に入りを見つけしてみてください！

（秋桜）

のみ歩きノート（牧野伊三夫）



うまい酒が飲みたいものだ。20 歳を迎え、酒を浴びては溺れて早一年、この本の一節をラジオで耳にしてから世界が変わった。僕が本当に求めていたのはただ酔うことではない。「酒がうまい！」としっぽり酔いを嗜むことなのだ。ルネでたまたまこの本を見つけたときは、すぐにあとがきを開いたものだ。大体本を買うときにはあとがきを先に読んで考えるのだが、期待通り、本作はそれが秀逸だった。「そのときどきで自分の財布に見合った酒を心ゆくまで楽しめる場」うまい酒は高いものと高を括っていた僕には耳が痛い話である。

言わずもがな、それぞれの酒にはそれぞれにうまい飲み方というものがある。この本には、著者の牧野氏が飲み歩いた酒場の逸話から家での晩酌の流儀まで、彼の酒に対する並々ならぬ愛情が詰め込まれている。思わず真似したくなるキザな飲み方も、舌なめずりしてしまうおつまみのあれこれも、笑ってしまうような酒の失敗談も。まるで酒を注ぐ水音のように心地よい牧野氏の淡々とした文体と相まって、自分までもう頭の中は晩酌のことでいっぱいになる。さあ今晚の最初の一杯はどうしようか。どこで何を飲もうか。家で、街で、あなたの最高の一杯を見つけるきっかけに、いかが。

一編一編が酔っ払いでも読みやすい長さなのがまたいいところ

（でこぼん）

世界の適切な保存（永井玲衣）



タイトルに惹かれたあなたは、既にこの本を手取るべきである。哲学者・作家の永井玲衣によるエッセイ。推薦文っぽいことを書けと言われるならば、何かしら世界を保存している人。例えば写真。例えば音楽。詩など。記録にまつわる全ての活動を行う人におすすめしよう。緻密に論理を積み上げるのが好きな方には読みにくいかもしれない。このエッセイは、時々跳躍する論理の隙間を楽しむ本だからだ。著者の記憶から、思索は始まる。

この本は私たちが物事をうまく憶えておけないこと、切り取りたいように切り取れないことについて悲観するでもなく、事実として受け入れる姿勢に貫かれている。裏返しに、どうしたって私たちの手に余る世界についても。例えば既に公演の終了したチケットで間違っ受付に来てしまった時。あなたにはそこに理由がなかった。しかし著者は思う。私たちが今生きている理由も同じだろう、と。だからこそ私にはあなたが必要だと意味づけし、求め合う瞬間がある、と。その必然のように思える出会いの、偶然性が、やはり世界の無意味で……。さらにこの本には教科書で習うよりずっと身に迫る詩が、多く引用されている。併せてお楽しみいただきたい。

とても平易で読みやすいです。難しいことは考えなくて良いです。あなたの味方になってくれると思います。

（小海）

バカとテストと召喚獣（井上堅二）



2007 年に第 1 巻が発売され、2 度もアニメ化した超名作ライトノベル。作者は井上堅二先生（神）で、イラストを葉賀ユイ先生（神）が担当されている。私立文月学園高等部では、科学と偶然とオカルトにより「試験召喚獣（しけんしょうかんじゅう）」の開発に成功した。テストの点数が高いほど強くなるこの召喚獣を用いて、生徒たちは教室のより良い設備を賭けた「試験戦争（ししょうせんそう）」に明け暮れていた。主人公の吉井明久が所属する F 組は成績も設備もぶっちぎりで悪く、我慢の限界に達した彼らは A 組を倒す策略を練るが……。というのが第 1 巻のあらすじ。

召喚獣システムの綿密な設定もさることながら、何より素晴らしいのは個性豊かなキャラクターたち。底抜けにバカだが優しさや勇気は一人前の主人公、怠惰だが策謀家の悪友、女子にしか見えない男友達、組分け試験での体調不良により F 組に来てしまったヒロイン、などなど……。属性過多の彼らが織りなす物語はノンストップで面白く、ときに心に來るものがある。初めて読んだときは彼らよりずっと年下だったのに、今や主人公たちの誰よりも年上になってしまった。どこか懐かしさを感じるゼロ年代の傑作、ぜひ一度読んでいただきたい。短編集込みで 18 冊なので集めやすいです（感覚麻痺）。

三本指に入るほど好きな作品です。最近は読むたびに存在しない青い春が想起され、いよいよまずさを感じております。私は霧島翔子というキャラが一番好きなので、読んだ方はぜひ語りましょう。愛が重い幼馴染は、イイ！

（姜維）



ヤンキー君と科学ごはん (岡叶)



中学時代のあだ名は「狂犬」。ヤンキー君こと犬飼千秋は、母が刑務所に入っているため、小学生の双子の弟妹と3人暮らし。そんな千秋の留年回避のため、担任を務める化学教師の猫村蘭はマンツーマンで補習をすることになるが、化学に興味を見出せない千秋は全くやる気がない。打開策を探していた蘭は、千秋が家族の分も料理をしていることを知る。調理の工程には全て科学的根拠がある。科学に興味を持たせ、補習を受けさせるため、よくある料理のお悩みを科学で解決する“実験”と称した料理をすることに。

ふわふわオムレツ、カリカリ唐揚げ、パラパラチャーハン……イラストから香るほどの描写力で描かれた料理たちはどれもおいしそう。これらの調理の仕方は作家で料理人の樋口直哉さんが監修しており、分量もまとめられているので、実際に作りたくなったらイラストで視覚的に理解しながら再現できる。乳化やメイラード反応など、勉強が苦手な千秋のために噛み砕かれた説明は読者にとってもわかりやすく、楽しく科学を学べる。徐々に蘭を信頼して心を開き、弟妹においしいごはんを食べさせるために科学の知識を吸収していく千秋が、周りの同級生たちと関わりながら成長していくのを見るのも楽しい。

喧嘩を売られることが日常的だった千秋が、喧嘩とは無縁の高校で蘭や同級生と触れるうちに、周りへの警戒を解いていく。威嚇をやめた千秋の素直な反応や笑顔がたまらない。(みずおにぎり)

女の園の星 (和山やま)



女子高生の自由の花園、女子校に勤務している国語教師・星先生。この作品は、星先生と教え子の生徒たちや、同僚の教師たちとの絡みが生み出す日常を描いたコメディだ。生徒たちの突飛な行動やそれに対する星先生の反応、さらに他の先生たちとのくだらないやりとりが、クスツとした笑いを誘ってくれる。また、登場人物のキャラが強いので、物語が進めば進むほどカオスさが増していく。

私は、ユニークな生徒たちの中で、自称「星先生観察ニツキヤ」の鳥井さんがお気に入りだ。星先生を研究対象として、徹底的に情報を探り、観察日記を書いている。自分に何かハプニングが起きると、「鳥井さんの波動がする……」と曇った顔をする星先生が、不憫ながら面白い。また、先生にあだ名をつけたり、自習時間はお喋りの時間になったりするなど、現実の高校で見つけられそうなありふれた日常が描かれている。高校という狭い世界の中で、生徒たちは自分なりの楽しみを見つけて生きている。そんな彼女らを羨む星先生を、大学という広い世界で生きている自分自身と重ねてしまう。ありふれているけれど、二度と繰り返されることのない日々。喉から手が出るほど欲しくなるが、決して届かない唯一無二の懐かしい青春が詰まっている。

現在4巻まで刊行中。今回は生徒について書きましたが、先生同士のやりとりも面白いですよ。

(雛鳥)

忘却バッテリー (みかわ絵子)

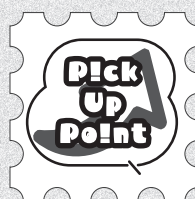


中学野球界にて、その圧倒的フィジカルと計算され尽くした連携で勝利し続け、数々の球児の夢をへし折ってきた怪物バッテリー、清峰葉流火(きよみねはるか)と要圭(かなめけい)。しかしある日を境に表舞台から姿を消し、2人揃って野球部すらない都立の無名高校に進学することとなる。その理由は、キャッチャー要圭が記憶喪失となり、まったくの“野球素人”のアホ男子となってしまったからであった！そして同じく都立高校に集まったのは、かつて彼らに心を折られ、野球の道を諦めてしまった才能ある者たち。集う場所を間違えた彼らは、圧倒的に不利な環境で甲子園への遠い道のりを踏み出す。

この漫画、ただのスポ根ではない。実力主義と上下関係が渦巻く野球部という場所で、選手たちが抱えているものがある。才能、劣等感、誇り。努力だけでは辿り着けない場所。人の夢を終わらせたトラウマ。それでも小さなきっかけで再び前を向けたり、向けないまま終わったり。リアルな心の変化の細やかな描写に胸が熱くなる。そして、シリアスとギャグの絶妙なバランスも大きな魅力である。監督や選手の家族、選手をガチ応援する愉快な地元のおじさんなど、個性的なキャラクターたちにクスツと笑える。笑いあり涙あり、ギャグ時々鬱展開な青春甲子園物語がここに幕を開ける！

野球のルールがわからなくても大丈夫！なんとジャンプ+にて初回全話無料で読めちゃいます。ちなみに、去年のレコ大を受賞した「ライラック」はTVアニメ「忘却バッテリー」の書き下ろし主題歌ですよ。(しらす)

生協ショップに本を取り寄せよう！



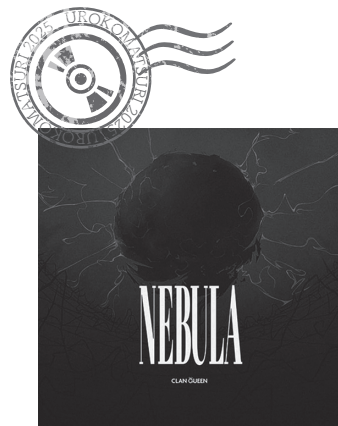
▲生協アプリから開いた様子

気になっていたマンガ、資格勉強の本、買い逃した教科書……店頭でなかなか見つけることのできない本は、取り寄せサービスを用いるのが便利です。ここでは大学で利用できるサービスとして「HonyaClub」をご紹介します。

大学生協アプリの「左上の『≡』マーク＞購入/利用＞ECサイト＞書籍注文サイト」からアクセスする、あるいは検索エンジンで「honyacub」と検索すればアクセスすることができます。サイト内で注文したい本を検索して「買い物かご」へと追加し、氏名やメールアドレスなどの情報を入力したのち、受取店舗を指定すれば注文完了！

在庫商品であれば2～3営業日ほどで、予約商品であれば発売日には指定した店舗に届きます。送料無料であることに加えて、**組合員が各生協ショップで商品を受け取る場合は、店頭で並んでいる商品と同様に10% off (あるいは10% ポイント還元) のお得な価格で購入できるのも嬉しいポイント。**「取り寄せ」と聞いたら手続きが煩わしく感じるかもしれませんが、スマホ1つで誰でも簡単に利用できるサービスです。この機会に是非利用してみてくださいね。詳しくは公式サイトをチェック！

NEBULA (CLAN QUEEN)

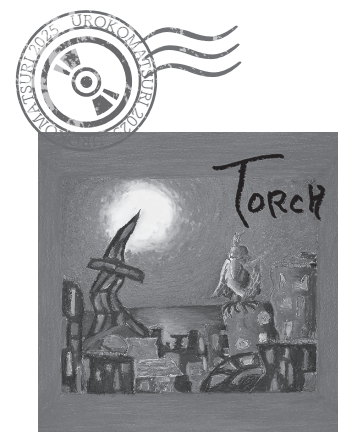


2025 年 11 月で活動開始 3 周年を迎える CLAN QUEEN。活動のすべてがコンセプトアルバムであること＝"アートロック"を標榜し、AOi (Vo.&Gt.)、yowa (Vo.)、マイ (Ba.) の 3 人のメンバーで作詞作曲から MV 制作、グッズのデザインまで手がける新世代ユニットだ。全国各所のフェスから引く手あまた、自らが主催するライブもチケットが完売続きと、その活躍からは目が離せない。

そんな彼女らがリリースした 2nd アルバム『NEBULA』。自らを「知ること」という内省的なテーマを据えた本作は、自分と自身が置かれた環境に対するある種の絶望を叫ぶアッパーチューン『チェックメイト』から始まり、疲弊して愚直に愛と助けを渴望する『求世主』、すべてを吐き出した後に残った自分自身について悟る『自白』と続く。眩暈で卒倒するほどにまで自らについて熟考し、それでもなお晴れないほど脳裏に立ちこめる「もや」がこのアルバム名の由来と AOi は語る。AOi のパワフルでかつ思索的で繊細な言葉選び、AOi の意図を阿吽の呼吸でくみ取り圧倒的なパフォーマンスで聴くもの全てを虜にする yowa とマイ。音楽の無限の引き出しを有する彼らがこの 1 枚を通してあなたを誘う独自の世界観、お楽しみあれ。

先日、念願だった CLAN QUEEN のライブに初参戦しました。音源の歌唱力や世界観はそのまま、圧倒的なパフォーマンスで観客を魅了する姿はまさに鳥肌もの。もうすでに次のライブが待ちきれません。(秋桜)

TORCH (ネクライトーキー)



「石風呂」名義でボカロ P として活動し、藤田 (Ba.) とともにバンド活動もしていた朝日 (Gt.) が中心となり結成されたネクライトーキー。あどけなさを残しつつも、曲によってある時は力強く、またある時は透き通るように綺麗なもっさ (Vo.&Gt.) の表現力豊かな歌声と、一度耳にすると離れない中村郁香 (Key.) の奏でる鮮やかなサウンドは「ネクライトーキーらしさ」を象徴するもので、それらをカズマタケイ (Dr.) の刻む正確なリズムやバンドの中核である朝日と藤田の安定感ある演奏が支え、唯一無二の音楽を作り出している。

そんな彼らの現時点における最新のフルアルバムが『TORCH』。アップテンポなロックナンバー『bloom』が本作をリードする。「根暗」な詞をポップに歌い上げる『ふざけてないぜ (Album Mix)』や良い意味でヘンテコな『浪漫てつくもんすたあ』など彼らの得意とする作風の楽曲に加え、情景が鮮明に浮かぶ『新島工場探検隊』、アルバムを力強く締める『石ころの気持ち』と、どの曲も強烈な個性を放っており、それでいてアルバム全体としての一体感も持ち合わせている。「ネクライトーキーらしさ」を感じられるバラエティ豊かな楽曲が並ぶと同時に、メジャーデビューから約 4 年を経ての彼らの成熟も感じられる 1 枚。

彼らが昨年の NF で Special Live をおこない、おまつり広場の京大生たちを沸かせたのは記憶に新しいですね。自分はあれを機にファンになりました。『TORCH』では、『新島工場探検隊』と『紫』が特に好きです。(砂消し)

マジックディスク (ASIAN KUNG-FU GENERATION)



ギターロックで一世を風靡し、国内外問わず多くのリスナーを魅了し続ける ASIAN KUNG-FU GENERATION (愛称：アジカン)。今年は 11 年ぶりに彼らの主催する音楽フェス、NANO-MUGEN FES. を開催。ベテランの域に入った今なお積極的に音楽活動が続けている。彼らの作品のジャケットは、そのほとんどが森見登美彦作品でもおなじみの中村佑介氏によるデザインであり、この 6 作目となるフルアルバム『マジックディスク』では珍しくバンドメンバーが描かれている。

本作はその色とりどりのジャケットが物語っているように、ロックサウンドを基調にしつつもバラード調の『架空生物のブルース』やダンスミュージック『ラストダンスは悲しみを乗せて』など、多彩な曲調のナンバーが並ぶ。また、メッセージ性の強い『新世紀のラブソング』、プラスアレンジが印象的な『迷子犬と雨のビート』、そして代表曲『ソラニン』と、シングル曲についても彼らの表現の幅広さがよく表れている。明るい印象の楽曲が多いが、一方で歌詞は重いものも多く、詞を読むのと曲を聴くのとでは受ける印象が大きく異なる。辛い状況の中でも、それを受け入れて立ち上がるような確かな明るさ、力強さを秘めたアルバムである。

『TORCH』の『紫』から色つながりですが、自分は明るいサウンドにやや暗い物語のような詞の乗った『橙』が本作を体現していてとても好きです。昨年味園ユニバースでこの曲を聴けたのはとても貴重な体験でした。(砂消し)

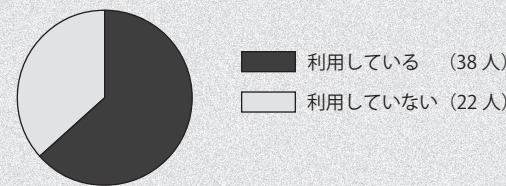
京大生
60 人に
聞きました

「CD」ってもう時代遅れ？

Q1. 大学に入学してから CD を購入、あるいは借りたことはありますか？



Q2. 音楽のサブスクリプションサービスを利用していますか？



この「鱗祭」企画を編集部内で立ち上げている最中にとある編集部員から放たれた「イマドキ CD って……」という言葉。棚から溢れんばかりの CD を隠し持っている根っからの「CD 派」の私は動揺を隠せず、急遽アンケートを実施することになりました。

その結果、大学に入学してから 6 割の人が CD に触れていないという結果に。この数字をどう捉えるかは人によりけりですが、あまり高い水準とはいえないでしょう。CD を読み込めるパソコンも、CD を扱うお店そのものも減少傾向にある中、京大生に限らず CD が身近な存在ではなくなってきた、という人が多いのではないのでしょうか。サブスクリプションサービスを利用して音楽を楽しんでいる人の割合も 6 割程度と、奇しくも CD に触れていない人の割合と同程度でした。

「サブスクと違って音楽をスマホに取り込むのが一苦労」などと敬遠されがちな CD ですが、モノによっては CD 版限定の特典が付属していることもありますし、なんといっても実物を手に取ったときの高揚感には他には代えがたいものです。たまには CD を使っていつもとちょっと違う音楽の楽しみ方を試してみるのもいいかもしれませんね。

はみだし
すてーじ

【実績解除】 鴨川に足を浸ける。
⇒鴨川いいですね。私もこの前「鴨川で手持ち花火をする」という実績解除しましたよ。

(総・4 たけのこ)
(桂川より鴨川派；編)

はみだし
すてーじ

運転免許に大苦戦中。バックとか縦列駐車とかできる気がしません。
⇒免許とってから何回もドライブしてるはずなのに未だ駐車ができずに泣いています

(文・1 ふたつぼし)
(ペダル踏み間違えて死にかけた；編)

JUNK HEAD (堀貴秀)



「キモかわ」という略語もあるくらいだから、キモさと可愛さというのはある程度両立するものだろうとは思っていたが、ここまでジャンキーなベストマッチを僕は知らない。そのキモさ、可愛さ、不気味さ、コミカルさオールマシマシちゃんぽんは「味わう」なんてもんじゃない。二郎系チャーシュー 1 噛み目のインパクト永続機関だ。エンドロールまでただ圧倒される。なにせキャラクターだけで白米 3 杯いけるクセの強さ。うーん、おかわりください。

さて、本作は内装業が本職の堀貴秀監督が、独学のうえ 7 年の月日を費やし、ほぼ 1 人で創り上げたストップモーションアニメ作品である。SF 作品であるのだが、小難しいストーリー説明は不要だろう。まずはぜひ作品 HP でキャラクタービジュアルを見てみてほしい。人間が労働力として生み出した「マリガン」なる人工生命体がいるのだが、これは獣型から人型まで実に多様な姿をしており、その姿が実に愛らしいのである。何を言っているかはわからない（実際この映画は字幕で観ることになる）し、姿勢好は人間のそれからかなりかけ離れた彼らだが、つい不思議とそのキャラに似た身近な誰かが容易に連想されてしまうのも面白いところだ。ぜひ好みのキャラを見つけてほしい。

ハマった人は、今年公開された続編の「JUNK WORLD」も必見です

(でこぼん)

グレイテスト・ショーマン (Michael Gracey)



“celebration of humanity”——これは登場人物である劇評家がサーカスを指して言った言葉である。読者の皆さんはこの言葉を見て何を思うだろうか。

この映画は、19 世紀に興行師として活躍していた P・T・バーナムという実在の人物が成功に至るまでのドラマを描いたミュージカル映画である。この映画の見どころは、やはり歌とダンスであろう。この映画の目玉とも言える楽曲 “This is Me” の他にも、多種多様なバックグラウンドや身体的特徴を持つサーカスの団員達が総出で披露する楽曲が複数あり、彼らの色とりどりの衣装や力強いダンス、そしてエネルギーに満ちた歌声が圧巻である。その一方で、1 人や 2 人など少人数で歌われる楽曲も複数ある。このような楽曲では、大人数で歌われる楽曲とは違いしっとりとした曲調でロマンチックな演出がなされているものが多い。例えば、“A Million Dreams” では屋上に干された白い布に映る光や影の演出が主人公一家の貧しくも幸せな生活をムードあるものにしている。また、“Rewrite The Stars” では 1 本の空中ブランコの紐を男女が操りあう演出が、身分の異なる 2 人の恋のもどかしさを表現している。このように、歌やダンスだけでなく細かい演出にも見どころがあるため、ぜひ 1 つ 1 つの楽曲をじっくり味わってほしい。

楽曲の歌詞も平易でありながら奥が深いのでぜひ着目してみてください。ちなみに私が一番印象に残っているのは “A Million Dreams” の “I close my eyes to see” という歌詞です。

(まろ)

ニムト



「無理無理無理、出せるカードない!」「よっしゃ、ギリギリ 5 枚目に置けた!」そんな悲鳴と歓声が飛び交う、ドイツ生まれの名作カードゲーム『ニムト』。ルールはシンプルなのに、遊ぶたびにドラマが生まれる、まさにパーティーゲームの決定版です。

各プレイヤーは 10 枚の手札からカードを 1 枚選び、一斉にオープン! カードの数字が小さい人から順に、場にある 4 つの列のいずれかに、ルールに従ってカードを配置していきます。多くの場合、カードを置ける場所は自動的に決まってしまうのがこのゲームのミソ。そして、もし自分のカードがどこかの列の 6 枚目になってしまったら、その列のカードをすべて失点として引き取らなければなりません! 手札の 10 枚はすべて使い切らなくてはならないので、先の展開を読み、相手の心を読み、あえて危険なカードを出す大胆さも時には必要になる、スリリングな心理戦が楽しめます。

ボードゲームの魅力は、友達同士はもちろん、まだ少し距離のある人とでも、遊ぶうちに自然と会話が生まれて仲良くなれる点にあります。『ニムト』はルールが分かりやすく、プレイヤー数は 2 ~ 10 名まで対応、プレイ時間も 20 分程度と、サークルでの合宿や新歓イベントなどで遊ぶのにもうってつけです!

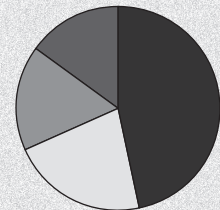
『ニムト』が気に入った方はボードゲ沼へようこそ! 筆者は『ローゼンケーニッヒ』や『ワーリング・ウィッチクラフト』がお気に入りです。ぜひ読者カードであなたのオススメを教えてください!

(ぷらむ)

気になる作品、どう見つける?

京大生
60 人に
聞きました

Q3. 自分が音楽を聴き始める、あるいは本や漫画を読み始めるきっかけとして最も近いものを選んでください



SNS を通じて作品を見つける (28 人)
有名ところをかじってみる (13 人)
本屋・CD ショップ等で見つける (10 人)
友人からの勧め (9 人)

SNS と上手に付き合うことは必須とも言えるでしょう。次に多かったのが「有名ところをかじってみる」派で、とりあえず何かに手を付けてみたい! という人にとって「コンテスト受賞作で面白そうだった (女の園の星)」など世間の評判は作品を選ぶ好材料になりそうです。「本屋・CD ショップ等で見つける」という人は全体の 1/6 程度で、「ジャケ買い」という言葉ももはや古い言葉になっているのだとか。ただし、「古本屋を物色していたら出会った (バカとテストと召喚獣)」など、お店に足を運んだとき限定的な素敵な出会いもありますよ。「友人からの勧め」と答えた人は意外に少なく見えますが、「中学生のときにみんなで観た (グレイテスト・ショーマン)」など、気の合う友人を通して出会った作品は長い間心に残るもの。この機会に、自分に合ったアプローチで新しい作品を「開拓」してみませんか?

大学生で時間のあるうちに色んなコンテンツを「履修」したい! とは意気込むものの、履修するきっかけを掴むことは案外難しいもの。世の京大生はいかにして作品と出会っているのでしょうか?

調査した中では「SNS を通じて作品を見つける」という人が半数近く占めていました。かくいう私もその 1 人で、「X を通じて (NEBULA)」記事で取り上げたアルバムに出会いました。今や作者やアーティストからの告知も SNS をフル活用しておこなわれる時代、作品と出会い、追いかけていくためには